

# 組織部速報

2021年11月5日  
No. 9

## 2021年度年末手当 第2回交渉（要求の根拠）を行う！

中央本部は本日、第2回交渉を行ない、要求の根拠について主張しました。

- 1年以上続いたコロナ禍において、感染者数はJR貨物グループを合わせて131名に留まっている。これは組合員とその家族が公私にわたって感染予防対策を行ってきた成果である。しかし、この間の春闘や年末手当の結果を見ると、組合員には「この労苦が会社に認められた」という実感が無い。
- 計画達成にむけ、組合員は日夜奮闘してきた。今後も協力は惜しまないが、計画達成を理由とした手当抑制は認められない。
- 職場は慢性的な要員不足が解消せず、必死に業務を遂行している状況が続いている。しかし、一方で若年退職や中途採用者の退職が後を絶たない。賃金・手当の面でもっと魅力ある会社にしないと、今後も状況は改善しない。
- 人事制度が変更されたが、社員の8割を占めるプロフェッショナル職群の生活は改善していない。職場の最前線を担うプロフェッショナル職群の組合員が、やりがいと働きがいを見出せるよう、会社として年末手当満額回答の姿勢を見せるべきである。

最後に、「会社は感謝の言葉は述べるが、組合員には目に見える形で示さなければ伝わらない。組合員の年末手当に対する期待は大きい反面、その期待が外れた場合には会社への不信感、あきらめが募り、『緊張の糸』が切れてしまう。そうなってしまえば、会社は成り立たなくなる。組合員の努力に対し、誠意ある回答を示すこと」と述べ、第2回交渉を終えました。

**職場集会や総対話行動を展開し「闘争ゾーン」に突入しよう！**